

第 55 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	鑑谷ゼミ	チーム名	ニャン
タイトル	犬と猫の殺処分を減らそう		
テーマ群	a) 理論・情報 g) その他		
メンバー	飯田智規、松岡洋伸、仁木佑成、小西音羽、岸田舞子		
研究計画内容	【研究背景】 日本の犬や猫の殺処分問題は、飼育放棄や遺棄、野良動物の繁殖、ペット販売の仕組みなどが背景にあります。飼い主が飼えなくなった、飽きたなどの理由で手放すケースが多く、行き場を失った動物が保健所に収容されています。特に避妊・去勢されていない猫は繁殖を繰り返し、数が増えることで処分対象となることもあります。また、ペットショップやブリーダーで売れ残った動物が処分されることも問題です。根本には命を預かる意識や教育の不足があり、適正飼育や避妊の重要性を社会全体で理解することが求められています。 【研究内容】 本研究の目的は、日本における犬猫の殺処分問題を経済学の視点から分析し、その削減に向けた効果的な政策手段を考察することである。近年、殺処分数は減少傾向にあるものの、自治体間での差が大きく、保護活動や譲渡制度の整備にも格差が見られる。これらの背景には、行政コスト、飼い主のモラル、民間団体の資金力など、経済的要因が密接に関わっていると考えられる。本研究では、殺処分に関する統計データや費用構造を分析し、経済的インセンティブや制度設計の観点から、持続可能な動物保護の仕組みを提案することを目指す。 【期待される効果】 本研究により、犬猫の殺処分問題を経済的・制度的側面から理解することで、従来の感情的議論を超えた実証的な政策提案が可能になると期待される。特に、行政支出の効率性分析やインセンティブ設計の考察を通じて、限られた予算でも高い成果を上げる施策の方向性を示すことができる。また、飼い主や企業、地域社会が主体的に関わることで、動物福祉と地域経済の活性化が同時に促進される可能性がある。さらに、研究成果は他の社会的課題への応用にもつながると考えられる。 【参考文献】 「環境省」統計資料犬猫の引き取り及び負傷動物等の収容並びに処分の状況(環境省.https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html)		